

第 37 回土木計画学研究発表会(春大会)：2008.6.6~7(北海道大学)

セッション討議内容の記録

セッション名：土木計画のための景観研究を考える（４）「景観に対する意識と空間操作」	
日付： 6月 7日（土）曜日，セッション時間： 14:45 ~ 16:15	
オーガナイザー・司会者名(所属)：柴田 久（福岡大学）	
討 議 内 容	セッション全体： ・山崎氏の発表について，模型を使った労力のかかった研究と感じる．町並み規範の理解という観点だけでなく，地域の人とその地域の空間規模を把握することにつながっていることがおもしろい．一方でデザインコードの検討については模型だけでは難しい．住んでいる人が町並みをどうしたいのか，住民の問題意識，住民の思いと町並みとの接点は？（佐々木） デザインボキャブラリーを表現するパーツができればよかった，住民の思いと町並みとの接点はワークショップが有用 ・シミュレーションの大切さ．こういう町に本当に住みたいのかという問いかけをしていく，マネジメントの観点で継続してほしい．（佐々木） ・清水氏の発表について，道路付属物の議論のところで，「ローカルスタンダード」というコトバがあったが危険性を持っている．統一すべきものとそうでないものの区別をするべき（天野） 地域全てとは思っていない．地形等の違いを踏まえたい． ・三好氏の発表について，ローカルなデザインが試行される，お金がないところにはへんなものはできない，人間がつくったものか，周囲がつくってきたものか，判断すべき，そこそこのデザインが許容されるのか（田中） 矢羽根，スノーポールについて，要領や基準では取り付けることが「善」とされる．理由を担保するものが要領や基準ではないか．（松田，寒地土木研究所） ・地域性を反映した付属物，地域性を知るための議論を抜いて，カタチから入るのは危険（柴田） そこそこのデザイン，外部の人の参加は大切である．（佐々木さん，発表者） ・大衆性もそう，そこそこのデザインもそう，なにがどういう理由でローカルなのか，抽象的なことをコトバにすべき（天野） ・小松氏の発表の個人の大衆性について，集団の大衆性についてはどのように考えているか（柴田） まだ個人レベルでの議論，真性の大衆であることが即座に反省につながるわけではない（小松） ・あくまでも，個々人の内面的なもの，大勢の心理等の現象については社会的な関係で議論されるべき（羽鳥） ・仮説検証型研究，アンケートは仮説の捉え方として適切か，ジャンプしていないか（平野）

(発表番号) 発表者名 (所属) : (294) 小松佳弘 (東京工業大学大学院)

・景観行政を進める上で、感度分析をしてほしい。全体の何%で有意になるのか (平野)
本研究は相対的な比較レベルである

1 / 3 でなくても傾向は出るのではないかと。感度分析は今後の課題としたい (藤井)

・大衆性を強く議論する意義について明確にしてほしい。ネオリベラリズムが最近の話題と考える (土井)

ネオリベラリズムとは逆行するもの、景観は個人の道徳意識に強く影響されるだろう

世の中への逆行は意図的である。オルテガの言っていることをあくまでも客観的に仮説立証したい。今後、他の思想との関連を考えるべき (羽鳥)

オルテガの理論は異端とされている。科学的な妥当性は否定できないことが証明されたのでは (藤井)

(発表番号) 発表者名 (所属) : (295) 山崎俊夫 (名古屋工業大学大学院)

・規範を受け取ってもらえなかった。経済学を学ぶとエゴイストになる？建築を学ぶと町並みに無頓着になる？建築と土木の傾向の違いについて教えてほしい (平野)

建築と土木では明確な差は生じなかった。

・模型製作の仕方は？ (柴田)

間仕切りをして個別に製作してもらった。

・パタンランゲージの使い方、回遊ではなく、視点場を固定した意図は？ (土井)

心象イメージが自分のものと一致しているかどうかを確認するためにパタンランゲージを用いた。

(発表番号) 発表者名 (所属) : (296) 三好達夫 ((独) 土木研究所寒地土木研究所)

・トータルデザインというコトバになんの意味があるのか (田中)

いろいろなものを考えなければならない

・技術者への教育は現場でされるべき (田中)

・今回の成果は、附属施設基準にぜひ載せていただきたい (平野)

・トータルデザインは街路樹などの物理的な周辺環境も含めたものであるべき (柴田)

(発表番号) 発表者名 (所属) : (297) 清水玄輝 (東京電機大学)

・支柱の大きさに言及すべき。許せることと景観的に良いことは解釈が違う。被験者にはどう質問したのか (天野)

「調和して見えるか」を尋ねた

・公園緑地課の標準条例というものが各自治体の基本にある。バナーに対する基準は緩くなっている。街路樹などとの関係性で評価すべき。条件設定の変数を増やしていただきたい (平野)

・商店主に対してどれくらいまで許容していいのか。実際に商売をしている人へのヒアリング等も是非行ってほしい (鈴木)

・実際、町並みと調和していたとしても広告の内容を伝えるためにどうすべきか (機能面) も検討されるか (石田)

(個人的意見) 個人の広告は必要最小限にして、フラッグはあくまでも公共広告として用いたい